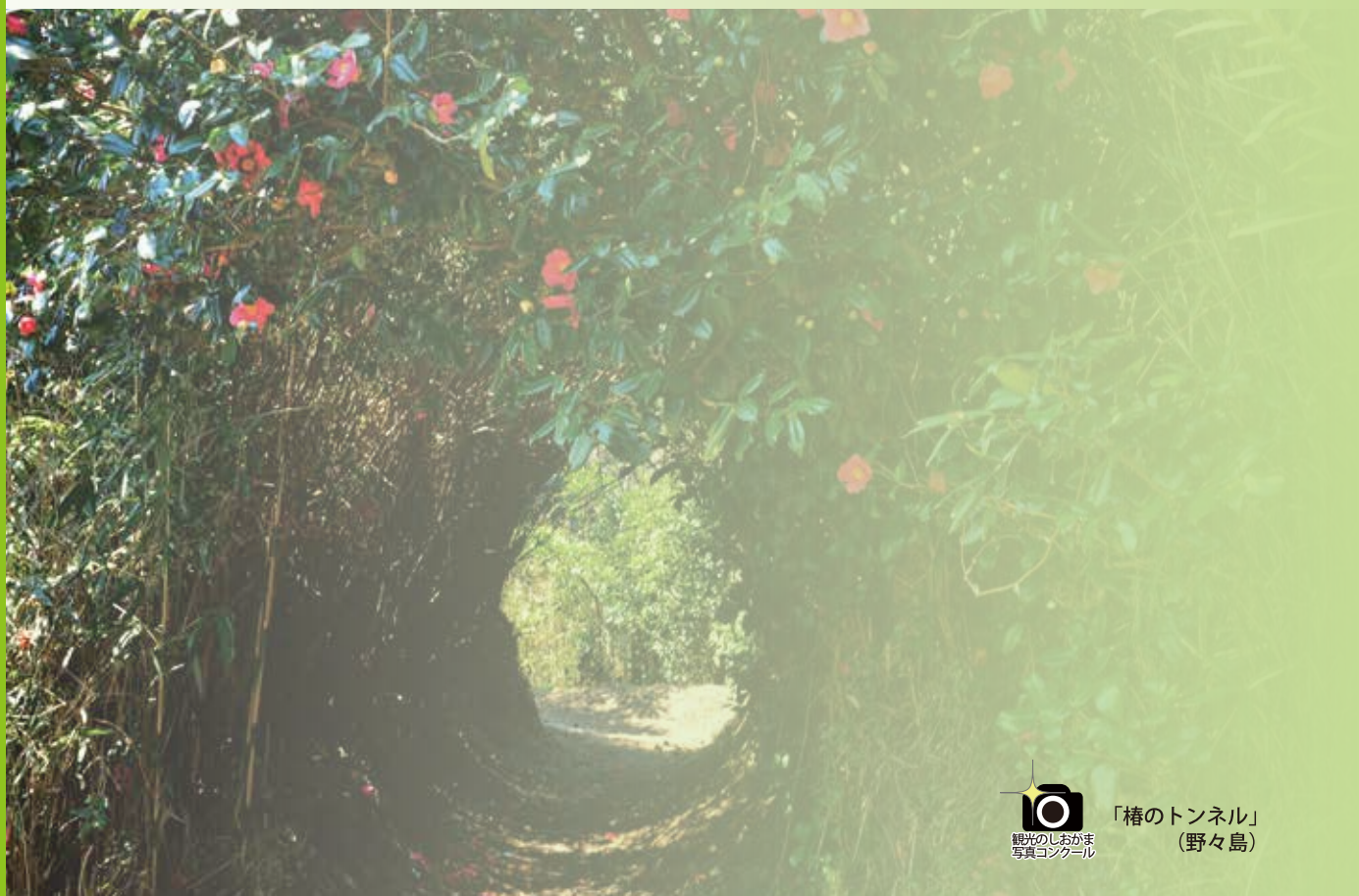


第3章

景観に関する課題

- 1 景観に関するこれまでの取り組み
- 2 景観に関する市民意見
- 3 上位・関連計画
- 4 景観形成の課題



第3章 景観に関する課題

1 景観に関するこれまでの取り組み



戦前

四季を通じて美しい鹽竈神社の御神苑は、「亦無岡（またなのおか）」と呼ばれ、明治9年に明治天皇が東北御巡幸の際、ここから千賀の浦を望まれ、「またとない良い景色だ」とおっしゃったことから命名されました。



昭和63年頃

昭和49年に海岸通に大型店舗が立地した際、赤と緑の看板が市街地景観と調和しないことから、店舗は協力して看板を赤から緑に色を塗り替えました。



緑に塗り替えられた大型店の看板



平成2年頃

平成2年に神社のご神苑からの眺望を遮断するマンションが建設されたことから、市民から眺望景観に関する議論が起きました。

この他にも宮町地区にマンション計画が持ち上がり、神社から間近で眺望への影響が大きいことから景観条例の制定が急務となりました。



海岸通地区
平成6年頃

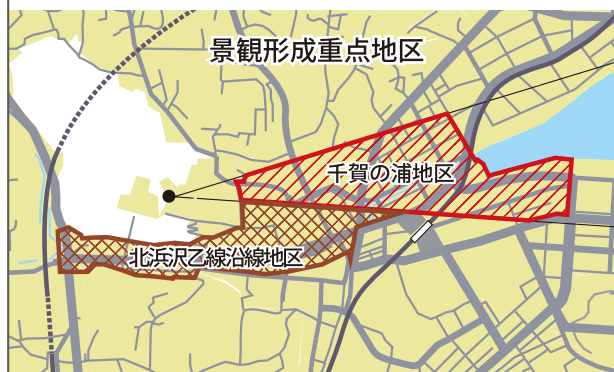


現在



塩竈の景観を守り育てる条例(平成5年4月)

- ・市全域における高さ10mを超える建築物等について届出（建築景観計画届出書）が必要。
- ・下図の重点地区内で高さ20mを超える建築物等については、景観審議会の意見を聴いた上で必要な助言及び指導。



平成5年頃



現在

平成3年から市役所内部で条例制定に向けた取り組みが行われ、平成5年4月に「塩竈の景観を守り育てる条例」が制定されました。

この条例では、北浜沢乙線の整備についても、建物の外観等についてのアドバイスや外構の助成等を実施することが盛り込まれました。

前述した大型店舗では平成5年にイメージカラーがローズレッドに変更されてからも、鹽竈神社側の看板は景観に配慮して白く塗り替えられました。



白く塗り分けられた大型店の看板

現在、大型店舗は移転に伴い解体され、また七ヶ浜町の火力発電所の3本煙突も撤去されました。さらに、東日本大震災によりホテルや工場等の建物も解体されました。

当該条例は、法律の根拠がなく、規制手法として届出、勧告にとどまり強制力を行使できないものの、一定の効力を果たしてきました。

市民の声

「塩竈のまち」を考え
市民による景観まち
づくりへの参加者が
増えていったら素敵
だと思います！



「和歌のある街」
(塩竈海道)



2 景観に関する市民意見

(1) アンケート調査の概要

市民の景観に関する意見・意向を把握するため、平成26年3月に市民アンケート調査、事業者アンケート調査、中学生アンケート調査、高校生アンケート調査を実施しました。

<市民アンケート調査>

20歳以上の市民 1,000名を調査対象（回収率33.5%）

<事業者アンケート調査>

市内100事業所を調査対象（回収率51.0%）

<中学生アンケート調査>

市内全中学校（5校）の全1・2年生951名を調査対象
（回収率90.7%）

<高校生アンケート調査>

塩釜高校の全1・2年生800名を調査対象
（回収率88.1%）

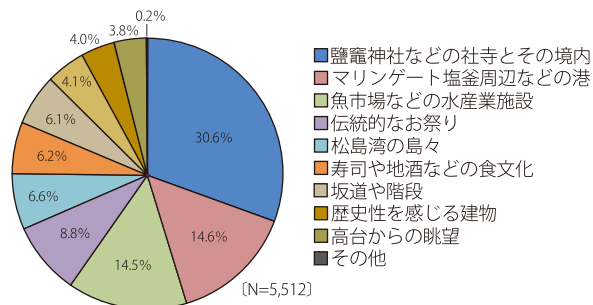
(2) アンケート調査のまとめ

① 景観に対する意向（対象：市民、事業者、中学生、高校生）

■「塩竈らしい」景観

「塩竈神社などの社寺とその境内」が最も多く、次いで「マリンゲート塩釜周辺などの港」、「魚市場などの水産業施設」、「伝統的なお祭り」となっています。

※全ての対象で「塩竈神社などの社寺とその境内」の回答が最も多くなっています

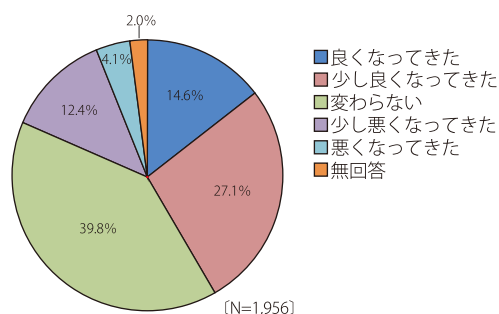


■以前の景観との比較

「良くなってきた」、「少し良くなってきた」が41.7%で、「少しわるくなってきた」、「悪くなってきた」も16.5%あります。

※対象別の最も多い回答

- ・市民、事業者…「少し良くなってきた」
- ・中高生…「変わらない」

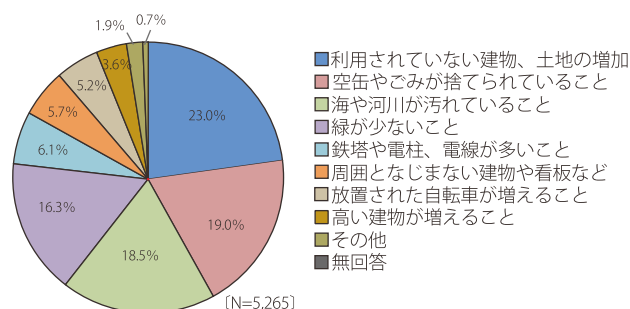


■景観を悪くする要因

「利用されていない建物、土地の増加」が最も多く、次いで「空缶やごみが捨てられていること」、「海や河川が汚れていること」の回答が多くなっています。

※対象別の最も多い回答

- ・市民、事業者…「利用されていない建物、土地の増加」
- ・中高生…「空缶やごみが捨てられていること」





「湾内の海上お祓い」
(塩竈みなと祭 7月第3月曜日 海の日)

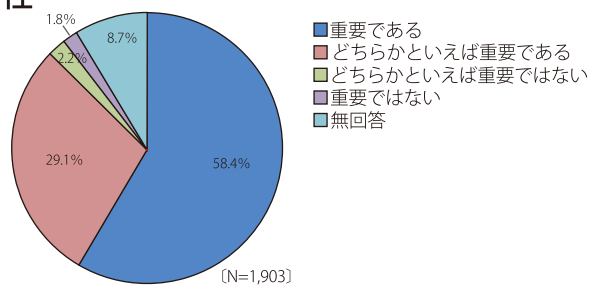


②これからの景観づくりに対する意向

■まちづくりにおける景観づくりの重要性

(対象：市民、中学生、高校生)

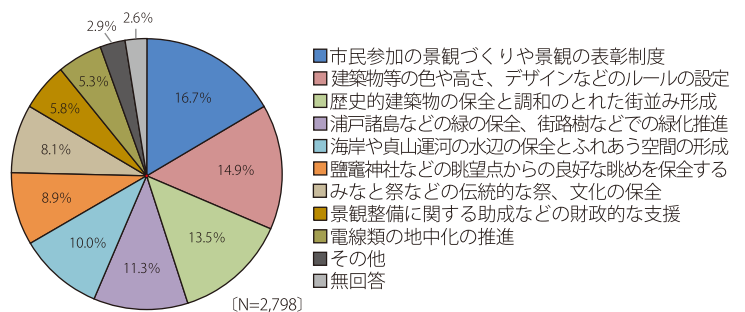
「重要である」、「どちらかといえば重要である」の回答が全体の87.5%を占めており、良好な景観形成が必要であると考えている市民は多くなっています。



■良好な景観形成に必要なこと

(対象：市民、事業者)

「市民参加の景観づくりや景観の表彰制度」、「建築物等の色や高さ、デザインなどのルールの設定」、「歴史的建築物の保全と調和のとれた街並み形成」、「浦戸諸島などの緑の保全、街路樹などでの緑化推進」などの回答が多くなっています。

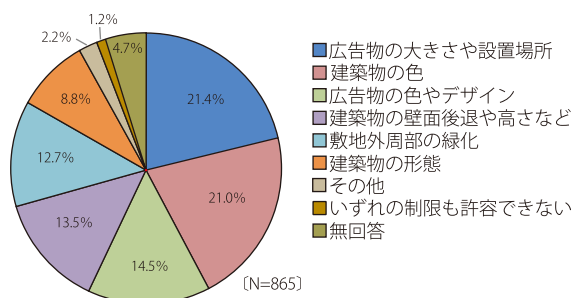


③景観づくりに関する制限に対する意向

■制限を定める場合許容できるもの

(対象：市民、事業者)

制限を定めるとした場合、許容できるものとして「広告物の大きさや設置場所」や「建築物の色（派手な色合いを避ける等）」が多くなっています。



※掲載しているグラフは該当する設問がある各アンケートを合算したものです。表記している値は総回答数に対する割合で、「N」は設問に対する総回答数を表します。

※回答結果の百分比(%)は、小数点第2位又は第4位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

※客観的設問については、複数回答を無効として扱っていないため総回答者数と合わない場合があります。

市民の声

海から観る景観を考
えていきたい。
夜景のきれいな海岸
ができればいいと思
います！



わかりん



「カモメ舞う」
(松島湾遊覧船)



3 上位・関連計画

(1) 第5次塩竈市長期総合計画（目標年次：平成32年）

第5次塩竈市長期総合計画は、平成23年に策定され、以下のまちづくりの基本理念、目指す都市像、景観に関する施策が掲げられています。

■目指す都市像

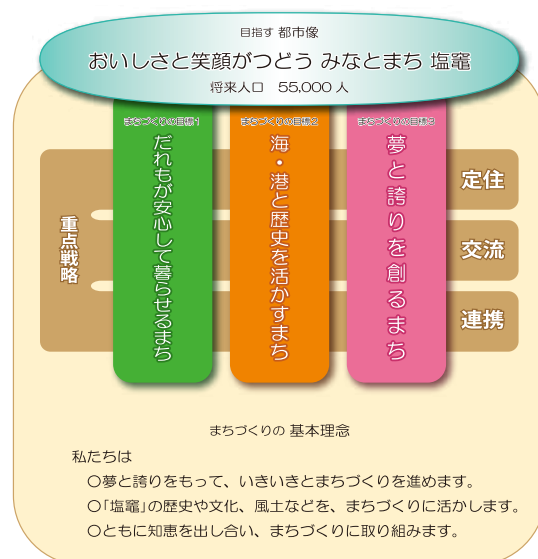
『おいしさと笑顔がつどう みなとまち 塩竈』

■まちづくりの基本理念

- 夢と誇りをもって、いきいきとまちづくりを進めます。
- 「塩竈」の歴史や文化、風土などを、まちづくりに活かします。
- ともに知恵を出し合い、まちづくりに取り組みます。

■景観に関する施策

- 歴史や文化を生かし、門前町の風情を醸し出す
まちなみ形成を図るとともに、市民協働による景観ネットワーク整備の推進
- 浦戸諸島や一森山からの眺望など、すぐれた自然景観の保全



(2) 塩竈市定住人口戦略プラン（目標年次：平成32年）

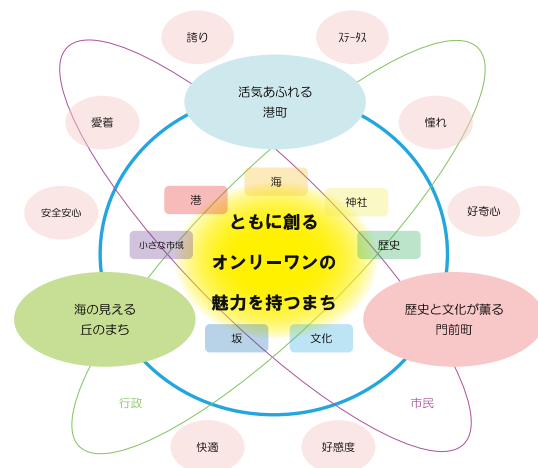
塩竈市定住人口戦略プランは、平成25年に策定され、以下のまちのイメージ、景観に関する施策を掲げています。

■まちのイメージ

- 「塩竈の個性」を活かし「活気あふれる港町」「海が見える丘のまち」「歴史と文化が薫る門前町」の3つの特色が融合する「オンリーワンの魅力を持つまち」を定住促進のための「まちのイメージ」と設定

■景観に関する施策

- 海を眺めて暮らせる良好な住宅地の形成
- 港町、丘のまち、門前町という魅力、特徴を存分に活かした街並みの誘導、道路、公園の整備





「表坂三段下り復興祈る」
(花祭 4月第4日曜日)



4 景観形成の課題

景観に係わる現況特性やこれまでの取り組み、市民アンケート調査やまちづくり懇談会の意見を受けて、上位計画である長期総合計画のまちづくりの目標等の実現に向けて、景観形成の課題を以下のように整理します。

(1) 四季折々の自然景観との調和

本市は、「特別名勝松島」に指定された浦戸諸島や杉ノ入裏の原風景など、古より歌に詠まれてきた四季折々の美しい自然景観を有しています。その背後には鹽竈神社の一森山等の社寺林、伊保石公園や加瀬沼公園等の緑地があります。これら貴重な自然は、本市特有の景観であり、この価値を守るため、建築物等の立地にあたり自然景観と調和する必要があります。

(2) 海と島々を望む美しい眺望景観の保全

鹽竈神社の御神苑から千賀の浦を望む眺望は、本市を代表する眺望景観であり、市民アンケートでも「鹽竈神社などの眺望点からの良好な眺めの保全」が景観形成上重要なものとなっています。しかし、近年、眺望を阻害する建築など、良好な眺望景観の喪失が懸念されています。

そのため、眺望景観の阻害要因を抑えて、本市を代表する海と島々を望む美しい眺望景観を保全していく必要があります。



鹽竈神社御神苑からの眺望

(3) 歴史的・文化的価値の向上に資する景観の形成

本市の旧地街地には、社寺や歴史的建築物等の歴史的資源が多く分布しており、市民アンケートでは「鹽竈神社などの社寺とその境内」が最も「塩竈らしい」景観となっています。

また、本市の歴史や文化を今に伝える「鹽竈神社等の社寺」、みなと祭り等の「伝統的なお祭り」は、「塩竈らしさ」を感じる代表的な歴史的・文化景観であり、市民の誇りとなっています。

そのため、市内に点在する歴史的建造物等の保全やその周辺環境の整備により、独自の歴史的・文化的価値を向上させる必要があります。



鹽竈神社境内

市民の声

高台からの眺望と海から見える塩竈の稜線を活かした眺めは船での観光につながると思います！



かきたん



「港の見える庭園」
(鹽竈神社御神苑)



(4) 定住を促進する質の高い豊かな住宅地景観の実現

本市は、昭和40～50年代を中心に丘陵地の宅地開発が行われてきましたが、一部では空き地や建物の老朽化等により、周辺の景観と調和していない家並みもみられます。

また、上位計画である長期総合計画では“定住人口の確保”を最重要課題と掲げており、関連計画である定住人口戦略プランの「いつまでも住みたい、住んでみたい、訪れてみたいまち」を実現するため、良好な住宅地の形成を図っています。定住促進に向け、良好な街並み景観の形成や、潤いの創出に向けた緑化を促進して、質の高い豊かな住宅地景観を実現する必要があります。

※国土交通省の社会実験によると、景色の中に緑が見える量（緑視率）が高まるにつれ、「潤い感」、「安らぎ感」、「さわやかさ」などの心理的効果が向上する傾向が確認されている。なお、緑視率が25%以上となると、緑が多いと感じる人の割合が高くな



丘陵地に広がる住宅地

(5) 緑と住宅が織り成す良好な丘陵地景観の形成

本市は、平坦地と丘陵地に住宅地が広がっており、その中に斜面林や社寺林等の樹林地が分布しています。また、市内のいたるところから丘陵地景観を望むことができ、これら丘陵地の住宅地も重要な要素となっています。そのため、丘陵地の住宅地においても斜面緑地等と調和して、眺められることを意識した良好な景観を形成する必要があります。

(6) 交流人口を呼び込む魅力的な景観の創出

本市は、交通結節点となる鉄道駅が4駅あり、まちの印象を特徴付ける場でもあります。そのため、駅周辺においては、玄関口として相応しい魅力の創出が求められています。

一方、中心部には、空き家や空き地が点在しており、市民アンケートでも、景観を悪くする要因として「利用されていない建物、土地の増加」が多く挙げられています。



西の玄関口塩釜駅周辺

また、上位計画である長期総合計画では、都市の活力の向上に向けて、交流人口の拡大を目指しています。そのため、鉄道駅周辺の中心部については、賑わいの創出に資する街並みを形成して、さらに交流人口を呼び込む魅力的な景観を創出する必要があります。

北浜地区
震災直後現在
緑地護岸
整備中

(7) 公共空間の整備における景観への配慮

本市には、道路や公園、港湾等をはじめ、様々な公共施設が整備されています。これらの施設は、地域の拠点であり、多くの人々が利用する重要な空間となっています。

この公共空間を快適で市民から愛されるものにするためには、整備において、地域のシンボル・ランドマークとなるよう景観に十分配慮する必要があります。



マリゲート塩釜

(8) 市民力を生かした協働による景観づくりの推進

本市の景観に関する取り組みは、鹽竈神社からの眺望景観を阻害する建築に対する市民の署名活動を契機としており、この活動が「塩竈の景観を守り育てる条例」の制定に結び付きました。しかし、現在、この条例の認知度は低くなっています。

一方、市民アンケートでは、まちづくりにおける景観形成を重要と考えている意見が多く、景観形成に関する活動に取り組んでいる市民団体もあります。

そのため、市民の景観に対する意識の向上を図るため、地域を知り、行政や事業者とともに創り、育む取り組みを通し、市民力を生かして、協働の景観づくりを推進する必要があります。

※市民力…市民がまちづくりの“主役”という意識を持って、行政とともにまちづくりを積極的に推進していく力



旧亀井邸での清掃活動



母子石の伝承活動



災害公営住宅での植樹活動



景観コラム『景観十年、風景百年、風土千年』

古代文学に描かれた「塩竈の自然景観」

本市の風景が、古代文学などに描かれていることをご存じですか。例えば「塩竈」「千賀の浦」「籬島」「野田の玉川」など、歌枕の地として数多くの歌に詠まれており、紫式部をはじめとする著名な都人の歌が三百首以上残されています。しかし、それ以上に本市の自然景観を名高いものにしたのは、平安時代、光源氏のモデルといわれる源融（みなもとのとおる）が、京都市下京区本塩竈町周辺に本市の海景色を模した大庭園（河原院）を築いたことです。この話は、平安時代の歌物語「伊勢物語」の第八十一段「塩竈」に書かれており、「我が国六十余国のうち、塩竈という所におよぶ風景の所はなかった」と賞賛しています。さらに宇治拾遺物語や今昔物語、世阿弥の謡曲にも描かれており、その大庭園は源氏物語に登場する「六条院」や「某の院」のモデルといわれています。茶道や香道の道具にも描かれる塩竈の自然景観。千年の時を越えて再び「塩竈という所におよぶ風景の所はない」と賞賛されるよう、景観を守り育てていきましょう。

【参考文献：塩竈市史Ⅰ本篇】



小倉百人一首でおなじみの河原
左大臣源融（みなもとのとおる）



まがき

籬 島（新浜町一丁目）

京都市下京区本塩竈町付近には「籬の森」という地名が残っており、往事の大庭園に「籬島」が再現されていたといわれます。

問 都市計画課まちづくり推進係
☎364-2510

広報しおがま平成27年6月号掲載

景観コラム『景観十年、風景百年、風土千年』

中世の面影も残る「塩竈の都市景観」

港町・門前町である本市に、かつてお城があったことをご存知ですか。市役所本庁舎の北側にある、東園寺雷神山に「駒犬城」がありました。築城時期は不明ですが、当地域を治めていた留守氏の城といわれ、後に重臣であった佐藤氏の居城となりました。しかし、伊達政景（政宗の叔父）が留守家のあとを継ぐことに佐藤氏が反対したため、元亀年中（1570～1573）、政景は駒犬城を攻め、佐藤氏は落ちのび廃城となりました。

まちの中心に残る丘陵が実は城跡と考えると、違った風景に見えてきませんか。塩竈の都市景観の中に中世の面影を探してみましょう。

【参考文献：塩竈市史本篇Ⅰ・別篇Ⅰ・資料篇Ⅰ・塩竈の歴史・塩竈市の文化財ガイド】



駒犬城跡の碑
（東園寺境内）

■景観シンポジウム（海と社が織りなす塩竈の美しい未来）

と き 8月1日(土) 14:00～16:00

ところ 塩竈神社大講堂

講 師 風見正三氏（宮城大学事業構想学部教授）

※プレイベント眺望見学会 13:00～（志波彦神社前）

問 都市計画課まちづくり推進係
☎364-2510

広報しおがま平成27年7月号掲載